

## 憲法講演会

## 「日韓問題 その背景と私たちの課題」

講師：高橋信氏(愛知県平和委員会理事長)

今、日本と韓国が植民地時代の徴用工問題に端を発し、政府間の関係がぎくしゃくしている。解決のめどが立っていない。

そもそも徴用工問題とはなにか？それに付随した日韓の問題の本質は何かを、長年、日韓関係を観てきた、高橋信先生に話してもらいます。

日時：2020年 1月25日(土) 午後 2時開演

## 映画 「不思議なクニの憲法」より

伊豆の国市九条の会主催で、時代劇場映像ホールにて、映画「不思議なクニの憲法」の上映会を開催しました。

この映画は、一見、日常生活から遠い存在にあるような憲法が、実は、ごくごく身近なところに顔を出していることを教えてくれています。

そのいくつかを映画の中からピックアップしてみました。憲法の存在を日常生活の中で見直していただけるとよいかと思えます。

高校生 「愛知県高校生フェスティバル」  
実行委員長 日比野和真さん

世界では、高校の無償化は当たり前。国連憲章を読んだとき、高校の無償化という条項がありました。それをほとんどの国が批准して高校を無償化にしている。でも日本は無償ではない、授業料を取っている。奨学金制度にしても、借金という形にして授業料を自己負担させている。この形には、納得がいかない。

24条では、「・・・その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」とある。

弁護士・明日の自由を守る若手弁護士の会  
堅十萌子さん

戦争やテロをなくすためには、貧困・不平等・格差にお金と人を費やすこと。

戦争とテロが起こる根源は、貧困や著しい不平等、格差があると私は思う。軍事力を増やせば格差と貧困は広がる。だから、本気でテロや戦争を無くしたかったら、軍隊ではなく、貧困にお金をつぎ込む、これが一番の近道だと思います。

## 作家・尼僧 瀬戸内寂聴さん

戦争中、「着物の袖を切れ、ぜいたくは敵だ」と、あの頃の日本は、本当に嫌な時代でした。本格的な戦争体制に突入していき、国家の命令に疑いもせず、男たちは皆、一億総玉砕の覚悟で戦

地に散っていったのです。

戦争なんてのは、だれも幸せにならない。あんな不幸なことは他にない。

— そして新憲法 —

人民が、我々が、普通の人が権利を持ったという事。 本当に涙が出ました。

映画評論家・ジャーナリスト  
松本侑壬子さん

新憲法のもと、一年生に教える戦後教育は、本当に民主主義。それから男女平等。そういう憲法に書いてある通りのことを、学校で教えたんですよ。

小学校一二年のころ、子どもどうして喧嘩するときも、男の子に向かって、「へん！男女平等だからね」って。



## 主婦「わたしとあなたのけんぼうBOOK」

著者 水野スウさん

「第13条 全て国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」

私が私らしく生きる。幸せを追い求めて生きる。個人として大切にされる。それを憲法に書いてあるというのを、娘が教えてくれた。

一人一人が大切な存在だという事を皆が共有しているときは、権力者も好き勝手なことができないじゃないか、その逆になったとき、権力は暴走するでしょうね。

(公財)日本ユニセフ協会会長  
赤松良子さん

「ベアテ・シロタ・ゴードン(GHQの若き女性スタッフ)が書いた憲法・第24条は世界で最も優れた男女平等の条項と言われます。

有名な音楽家だった父の仕事の関係で子供時代を日本で過ごすあいだ、日本の女性たちの苦勞をいやというほど見てきたベアテさんは、「日本の女性たちのために最高の条文を書いてあげたい」と思ったそうです。

もし、第24条がなかったら、日本の女性の権利はどこまで守られていたでしょうか。ベアテさんが書いてくれたおかげで、今の私たちの自由と平等があるのです。」

日本の女性は、本当に長いこと押さえつけられていて、何の権利も認められなかった。女は法律上、親の財産を相続する権利もなかった。兄貴が「かまどの下の灰まで全部俺のものだ」なんて言うのを聴いたら、もう腹が立つて。それが、24条のおかげで、男女が平等になった。